

ネットワーク

## KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク



## きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワース株式会社 / 五島冷熱株式会社  
小南印刷株式会社 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学大学設立財団 / 親切会北海道支部  
株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホームズ株式会社 / バタゴニア札幌北・バタゴニアアウトレット札幌南  
株式会社プリプレス・センター / 株式会社古山商店 / 北海道自動車処理協同組合  
公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一步園財団 / 雪印種苗株式会社

きたネットの活動にご寄付・ご協賛をいたいたみなさまです。ありがとうございました。(8/31現在・順不同・敬称略)  
DCMホームズ株式会社 / KDDI株式会社 北海道総支社 / 公益財団法人日本賃貸住宅管理協会 北海道ブロック /  
公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会 北海道支部 / 全国賃貸管理ビジネス協会 北海道支部 /  
一般社団法人札幌空調衛生工事業協会 / 株式会社北翔 / 北日本測地株式会社 / 伊丹車輛株式会社 北広島支店 /  
石上車輛株式会社 / 丸利伊丹車輛株式会社 / ソリトン・コム株式会社 / 札建工業株式会社 / 山本建設株式会社 /  
株式会社宅建 / 親切会 北海道支部 / 株式会社ファズ / 有限会社ドルフ / 株式会社オール / 川正染工株式会社 /  
株式会社セクト / 草野英美子 / その他個人

## 【認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル5F

Tel 011-215-0148

Fax 011-215-0149

E-mail office@kitanet.org

 一般財団法人  
セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。



# 04

# vol.

# KITA-NET NEWS

# 2016/09

## きたネット ニュース

きたネットWeb <http://www.kitanet.org/>  
ラブアース・クリーンアップin北海道 <http://www.love-earth-hokkaido.jp>  
森づくりナビ★北海道 <http://kitanet-mori.com>  
環境情報Blog <http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff>  
きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>

認定NPO法人  
北海道市民環境ネットワーク  
「きたネット」  
北海道の環境保全活動を推進・支援する  
団体・個人・企業が参加する  
ネットワークです。

メッセージ

# MESSAGE

きたネットの2016年通常総会が終了し、第四期中期5カ年計画が決定しました。北海道の環境団体の活動と、北方圏の生態系を守る研究者や拠点施設との新しいつながりづくりを、次の5年間の目標として設定しました。市民活動のスキルアップや、研究成果の市民への普及活動、施設でのイベント実施など、市民団体と協働したいと考える研究者の方は、ぜひ「きたネット」に声をおかけください。



きたネット理事長  
**秋山 孝二**

きたネットは設立から14年が経ち、私は理事長として8年目を迎えていました。環境分野の活動は全く素人でしたが、この間、多くのみなさまとの出会いで、たくさんの学びを得ることができ、心から感謝しています。

「未来は予想するものではなく創るもの」を信じて、私が力を入れたことは、企業でも大切な中期的展望の「見える化」を、市民活動にも応用することでした。2011年に、理事会での議論をベースに「第三期中期5カ年計画」を策定し、今年度総会では、それに続く「第四期中期5カ年計画」が承認されました。

第四期は「世界につながる北海道、北の生物多様性を守る」を使命に、次の5項目に留意して事業を行っていきます。

\*「北海道」を、日本の都道府県の一つの地域としてではなく、地球の中の「生命地域(バイオリージョン)」～固有の土壤や地形、水系や気候、動植物をはじめ、多くの自然の特徴を備えた独自性を持つ生命の場～としてとらえる。

## INFORMATION インフォメーション



### 札幌・きたネット発 市民活動助成セミナー 2016

市民活動を支援する助成団体の担当者が一堂に！制度の仕組みや申請方法等を解説後、個別相談に応じます。複数の団体に一度に相談することができます。

[日時] 2016年10月23日(日) 13:30 ~ 16:50

[会場] 北海道新聞 A会議室 (札幌市中央区大通西3 道新ビル北一条館2F)

\*時間等が変更になる場合があります。詳細はきたネットHPでご案内します。

### 北の生物多様性を守るために世界とつながる・発信する

[5/21きたネットセミナー開催]

今年の総会同日セミナー、講師は酪農学園大学の名物コンビ?の吉田剛司先生と金子正美先生です。北海道は地球環境の中でどんなポジションなのか、北海道の環境保全活動は世界とどうつながっているのかを、お話をいただきました。

津軽海峡には生態系を分けるプラキストン線という動植物の分布境界線があります。北海道は本州とは異なる、シベリアなどの北方とつながる生物相を持ちます。金子先生から、札幌からは東京よりもウラジオストックの方が距離が近い、北海道はヒグマなど北方系生物の「南限」であり、温暖な気候に守られて多様性の高い自然があること、コンサバーション・インターナショナルが選定した、世界の生物多様性のホットスポット(多様性が高いにも関わらず絶滅危機に瀕している場所)を見ると、日本は重要早急に手をうたなければならない重要な地域に指定されている、というお話をありました。また、北海道の身近な夏緑広葉樹林帯・冷温帯林は、世界ではたいへん希少で保全すべき生態系を有する場所であるということでした。



吉田剛司先生からは、野生動物のお話を中心に、北海道の課題は世界共通の課題、北海道で解決して情報発信することで、世界に貢献できるというお話をありました。例としては、北海道のエゾシカ対策があります。酪農学園大学では、洞爺湖中島のエゾシカ調査を継続して行っています。中島では一時、400頭まで増えたシカが島内の植物を食べ尽くし、下層植生がだめになって、林床はシカが食べない植物だけの状態に。鳥類も営巣しなくなり、昆虫も激減、生物多様性が失われました。吉田研究室では、数年かけて中島のエゾシカを50頭までに駆除、今後はこの頭数を維持し、継続して植生調査を続けるそうです。シカの増加による生物多様性低下は世界各地で起こっている問題で、中国や韓国でも近い将来、同じことがおこる可能性があります。北海道の調査研究や対策は、アジアの課題解決の実践例になります。

エゾシカ問題の解決のために、ハンターの育成(今やハンターが絶滅危惧種!)、シカの行動圏や生態の解明、資源としての有効活用の3つのポイントで取組んでいるということです。また専門家の育成も重要ということでした。

日本の北海道以南の在来種が北海道に入り込んで、北海道の生態系を変えてしまう例もあります。例えばトノサマガエルは、本州の各地では希少種として保存対象ですが、もともと北海道には生息していませんでした。近年、北海道で大量に生息が確認され、在来の水生昆虫を大量に捕食する、危険な外来種になっているそうです。こういった問題も、北海道でなぜ繁殖するのか研究する事で、全国に提言が可能だということでした。

最後に、北海道の自然環境は世界に向けた観光資源としても大きな可能性があり、観光で保全費用を生み出すこともできるというお話をありました。北海道で釣りや狩猟、野鳥観察をしたいと考えている人は世界にたくさんいる、自然を享受するためにはお金が必要か、自然環境からどのような収入が生まれるかを戦略的に考えた取組みを世界から学び、実践していくことが重要だということでした。



### ごみ拾いビーチウォークと石狩浜の自然を学ぶ会

[6/12 ラブアース・クリーンアップin北海道2016]

7回目となる石狩浜でのクリーンアップ。参加者664名で、今年も見事にキレイな海岸になりました。晴天だったものの、ごみも飛んでしまう激しい強風で、収集量はいつもの3分の2程度、約2トンでした。

実施場所の石狩海岸は、海岸砂丘や海浜植物群落等がある自然の宝庫。ごみ拾い活動終了後、身近な環境保全の重要性を学ぶプログラムとして「石狩浜の環境破壊の現状視察と貴重な海浜植物の観察」を行いました。ガイドは、地元で貴重な場所を守る活動を進めている、いしかり海辺ファンクラブのみなさんにお願いしました。

視察した砂丘は、バギー車等の乗り入れにより浸食され、植生が消失した場所でした。保護活動を進めてもマナー違反は後を絶たない無残な状況を目の当たりにして言葉を失いました。

海浜植物はハマナスがちょうど満開で、海岸一帯に心地よい香りを漂わせていました。ハマナスの丘公園ではハマエンドウやコウボウムギなどの観察を楽しみ、石狩川河口の砂嘴を眺めました。砂嘴は石狩川が運んでくる砂によって広がり、石狩灯台は当初は突端にあったそうですが、現在は内陸にある形になったそうです。

力強い自然界と人間による自然破壊、ごみ拾いとは別の角度で「環境」を意識するきっかけになるプログラムでした。今後も継続していきたいと考えています。

共催:NPO法人北海道海濱美化を進める會  
協力:NPO法人いしかり海辺ファンクラブ、石狩市  
NPO法人ezorock、北海学園大学P-コネクション  
協賛:北海紙管株式会社



本セミナーの内容は  
録画でご覧になれます。  
<http://kitanettv.blogspot.jp/>

きたネット会員

### KITA-NET MEMBERS



### NPO法人北海道ツーリズム協会

#### 地域の特性を住民が守り発信するグリーンツーリズム事業

NPO法人北海道ツーリズム協会は「地域の活性化は、地域住民自らが企画・立案し実行する内発的発展以外にない」を活動理念として、2000年に発足しました。十勝平野の北西部に位置する鹿追町を主なフィールドとして、農村の特徴を生かした、都市農村交流と地域活性化を図るグリーンツーリズム事業に取り組んでいます。

設立以降、地元農家や観光事業者、食品加工業者の協力を得て、10以上の事業を生み出し、現在も継続・拡大させてきました。鹿追町には周辺の自然に魅せられて移住してきたアウトドア愛好家が多く、2008年には町民とアウトドアガイドとの交流を目的に「しかおいアウトフィッターズクラブ」を結成。本クラブのメンバーを中心に、然別湖に生息する固有種・ミヤベイワナを厳しい遊漁規則で守りながら釣り場としての魅力を高め、自然保護とフィッシングの両立をめざす「グレートフィッシング然別湖」事業を毎年行っています。

また、農家と連携して若者の長期滞在型ワーキング＆ホリデー事業、十勝の農業(酪農・畜産・畑作)に特化した求人情報サイト「田舎暮らしのススメ」を運営しています。今後も、魅力ある地域コミュニティづくりをめざし、地元住民と移住者、長期滞在スタッフとの交流の場づくり、地域の魅力の発信を続けていきます。

[電話]0156-69-7333  
[HP]<http://www.htu.ne.jp/>

#### Network

きたネットの全国ネットワーク



全国4団体のネットワーク会議風景



支笏湖森づくり風景



### NPO法人EnVision環境保全事務所

#### 環境("En"vironment)について新しい展望(Vision)を切り開く

EnVision(エンビジョン)は、自然環境保全についての新しい技術開発や政策提言を通じて、環境保全に役立つことを目的に、1997年に任意団体、2004年にNPO法人として設立されました。

生物多様性保全や地球温暖化など近年の環境問題は、地球レベルで事態が変化しており、また、利害関係が複雑であるがゆえに、人々の取組みを難しくしています。この原因の一つには、地域と世界の空間的スケールの差、環境に対する人々(組織)の価値観あるいは情報量の差など、多様な差異(ギャップ)の存在があると考えます。現代社会は、このような状況に対応していくべく持つには十分に成熟していませんし、このようなギャップを解消するには、既成の枠組みのみで解決して行くには限界があります。このため、枠組みにとらわれずに、情報提供やネットワーク形成し、様々な利害関係者を対等な立場で結びつけていく働きをする組織が必要です。

そこでEnVisionは、自然環境の調査・研究、自然環境保全に関する情報の作成・発信、国内外の人・組織・情報のネットワーク作り等の事業活動を行い、様々なギャップを解消するための「つなぎ」役となり、生物多様性保全等の環境問題の解決に寄与することを目指し活動しています。

[電話]011-726-307  
[HP]<http://www.env.gr.jp/>

#### きたネットチョイス

### KITA-NET CHOICE

#### セブン-イレブン記念財団が結ぶ 全国4組織の環境中間支援のネットワーク

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団と、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために「市民環境活動支援協定」を結び、全国のセブン-イレブン店頭に寄せられた募金を原資とする、環境市民活動助成制度から、運営を支援する助成金をいただいて活動しています。この協定による助成を受けている中間支援団体は全国に4つ、きたネット、NPO法人地域の未来・支援センター(中部/名古屋市)、NPO法人エコネット近畿(近畿/大阪市)、NPO法人九州環境サポートセンター(九州/熊本市)があります。この4組織は、年に1回の代表者が集まる合同会議で、事業報告や情報共有を行っており、またお互いの会員マーリングリストに参加し、情報交換を行っています。

セブン-イレブン記念財団は、北海道で、2006年にスタートした100ha、10万本の植樹活動「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」や、国有林の中で開催される「北海道森林スポーツフェスタinおたる」、森も海も蘇らせる「えりもセブンの森」活動など、多くの事業を展開しています。

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 <http://www.7midori.org/>

#### Event

きたネット主・共催イベントです。  
詳細はお問い合わせください

- 10/9(日)10:30 ~ ラブアースの森づくりin白老 場所：白老町字石山「トラストの森」
- 10/22(土)9:30 ~ ラブアースの森づくりin札幌 場所：札幌市茨戸川緑地
- 12/10(土)10:00 ~ キタネットフォーラム「北の生物多様性を守るために」(仮) 会場：札幌エルプラザ